

事業の背景・目的

日本海に浮かぶ天売島は、ウミガラスなど100万羽の海鳥が繁殖し国定公園や国指定鳥獣保護区に指定される海鳥の楽園であるが、近年は周辺環境の悪化などにより海鳥の個体数の減少が見られている。今後の海鳥保全のためには、羽幌地域の森里川海といった自然環境全体の保全を進めていく必要がある。また自然環境と関わりが深い地域産業と協働を図り「海鳥をとりまく自然環境の保全」と「羽幌地域の産業振興」の両立を進めることが重要である。

事業の内容

①シーバードフレンドリー認証制度事業

すでに認証を受けている4つの団体（地元漁協による海鳥の混獲対策への協力、特別栽培米の米作り、特別栽培米の販売とCRMによる地域への再還元、生産者・地域と取り組むCSVの実践）の取組に係る啓発を実施したほか、イベントにてシーバードフレンドリー認証制度の取組紹介パネルの展示や認証団体の商品を使用したメニューを提供するなど本制度の認知度拡大に努めた。

②「生物多様性の見える化」のための自然環境調査事業

農業などを削減した特別栽培米の圃場、無農薬の圃場、羽幌ビオトープの3地点で昆虫（トンボ目）インベントリ調査を実施し、確認できた種の比較を行った。

③環境人材育成のための地元高校との連携事業

当協議会とパートナーシップ協定を締結している地元高校の「総合的な探求の時間」を活用した授業を実施し、羽幌町の環境やシーバードフレンドリー認証制度に関する講話を行ったほか、羽幌ビオトープにおける樹木調査や海岸のマイクロプラスチック調査等を実施し、環境教育の促進を図った。

得られた成果

シーバードフレンドリー認証制度事業については、今年度は新規認証事業者はなかったが、これまで認証した4団体の取組や認証制度自体を普及啓発することで、天売島の海鳥をとりまく自然環境の保全と、地域産業の振興により羽幌の地域活性化にもつながることなど、徐々に理解が浸透してきた。

「生物多様性の見える化」のための自然環境調査事業については、調査によって得られた結果はシーバードフレンドリーの基準作りの参考や自然環境に優しい手法で作られた商品の販売促進の手助けとなった。を元高校らと連携する中で実施することにより、羽幌地域の環境保全の気持ちや郷土に関心を持つ若い世代の意識向上に寄与することができた。

環境人材育成のための地元高校との連携事業については、羽幌地域の環境保全の気持ちや強度に関心を持つ若い世代の意識向上に寄与することができた。また、パートナーシップ協定を締結していることで環境保全活動等の連携がより強化されていると考える。

将来的には、シーバードフレンドリー認証制度が広く普及し、自立運営ができる体制を構築するほか海鳥調査や普及啓発など「海鳥を取り巻く自然環境の保全に関するトータルコーディネート」を行う団体となることで取組の継続を目指す。